



緑肥・緑化の部屋 25

～環境保全の実践を目指して～

タキイ種苗(株) 営業部 緑化飼料課

Q 毎年サツマイモを栽培しているのですが、最近、小さいサツマイモしか収穫できなくなっています。連作が原因なのでしょうか？

A 原因は、「サツマイモネコブセンチュウ」による被害だと思われます。
このセンチュウはサツマイモ（ヒルガオ科）のほか、トマト（ナス科）、キュウリとメロン（ウリ科）、オクラ（アオイ科）のほか、イネ科、マメ科、ユリ科、アブラナ科、アカザ科、キク科などの作物に被害を及ぼします。サツマイモネコブセンチュウに対しては登録された農薬がありますが、最近盛んなのが、緑肥を使ってセンチュウを抑制する方法です。
従来、緑肥を使ってセンチュウを抑制する方法では、ギニアグラスやネコブキラー（クロタラリア）など、

春～夏まきの緑肥が主に利用されていましたが、サツマイモの栽培時期と重なってしまいました。そこでおすすめなのが秋まきできる品目です。

えん麦『たちいぶき』は、センチュウ抑制できる秋まきの品種です。『たちいぶき』なら、サツマイモを収穫した秋からでも播種できるので、効率的にセンチュウの抑制が期待できます。

※抑制効果は、センチュウが土壤中で活動している時期（土壌の温度が20℃以上である春から秋にかけて）に緑肥作物を栽培することが必要といわれています。

**サツマイモネコブセンチュウの密度を抑制！
寒地型イネ科牧草で、冬～春の間に生育させることができる。**

えん麦 たちいぶき PVP

（九州沖縄農業研究センター育成）



〈播種期〉
・ 中間・暖地：3～5月、8月下旬～11月（秋まき）
・ 冷涼地：4～6月、8～10月（秋まき）

〈播種量〉
10a 当たり 8～10kg



↑「たちいぶき」後作でのサツマイモ



↑「市販品種A」後作でのサツマイモ